

**増税を求めるなら、まずは身を切る改革を!**

震災の傷がまだ癒えない1999年、私は神戸市議に挑戦しました。神戸を再び輝く街にしたかったからです。

あれから24年が経ちました。神戸市議から衆議院議員へ、そして兵庫県議と立場が変わり時代も変わりました。しかし、私には一貫して変わらない信念があります。

**その一つが納税者目線を忘れないことです。**

皆様は地域が良くなり未来を明るくして欲しいとの思いで税金を負担しています。だからこそ税金の無駄使いや悪しき慣例など納税者が納得できないことは厳しく追及し是正を求めるという議員の使命を忘れたことはありません。

物価が上がり実質賃金が減っているのに増税の議論。

政治家は自らの処遇にメスを入れず不祥事を繰り返しています。

これでは政治への信頼は失われるばかりです。

増税を求める前に議員自らが身を切る改革を行う。私はこれを断行します。

**改革を叫ぶだけでは何も変わらない!**

**もう一つは中身のある改革をしたいということです。**

改革を訴えるのは簡単です。しかし、大切なことはその中身であり、言うだけでなく実現してはじめて改革と言えます。

コロナ禍を経験し新たなライフスタイルが生まれ、ウクライナ危機などで光熱費はじめ諸物価が上がり時代が大きく変わろうとしています。それだけに、イメージだけでなく実現可能な具体的改革を提示し実現させることが必要になっています。私はこれまでの経験を活かし公約を守り、それを実現することに全精力を注ぎました。

「増税の前に政治家は自らの身を切るべきだ」

「未来に繋がる投資によって経済成長をおこしたい」

「過去のしがらみや慣例を取っ払いたい」

**私は、自民党支配による「ぬるま湯県政」に挑戦し続けます!**

何山好一

